

# つり野郎

いーはちえる

## 釣りがしたい

---

2013年、X680x0 同好会に空前の釣りブームが訪れた。ある者は大学から程近い多摩川へ、またある者は海へと、次々に釣りをしに出かけた。

「この流れに乗るしか無い」

そう思った私達は、ついに行動を起こすことにした。

## いざ阿佐ヶ谷

---

8月某日、私達は阿佐ヶ谷に集まった。



最近こういう写真を見ると、唾液が出るようになってきた。

阿佐ヶ谷は JR 中央線の三鷹～新宿間のほぼ中間に位置し、都会といえば都会といった雰囲気を出しているところだ（失礼）。少なくとも、調布よりは都会だろうか（再び失礼）。ここに来た理由はただひとつ。釣りをするためである。

今回この企画に参加してくれたのは、X680x0 同好会の同期 8 人。筆者含めて計 9 人で 釣り堀へ行った。

## 駅から近いぞ！

一体どこで釣りをするのかと思うだろうが、実は、古くからあるという釣り堀が阿佐ヶ谷にはあるのだ。それが、今回お邪魔する釣り堀、「寿々木園」さんだ。

駅の南口から、歩くこと 2 分。いや、もっと短かったかも知れない。駅前の広場を抜け、コンビニの前の道を右折し、そこから真っ直ぐ歩いて行くとさっそく看板を発見出来る。近い。すごく近い。ここで釣りをするのだ。テンション上がってきた。



目の前には「釣り堀」と書かれた看板。ここに間違いない！

釣りに飢えた私達は、何とも言えない高揚感を抱きながら、入っていった。

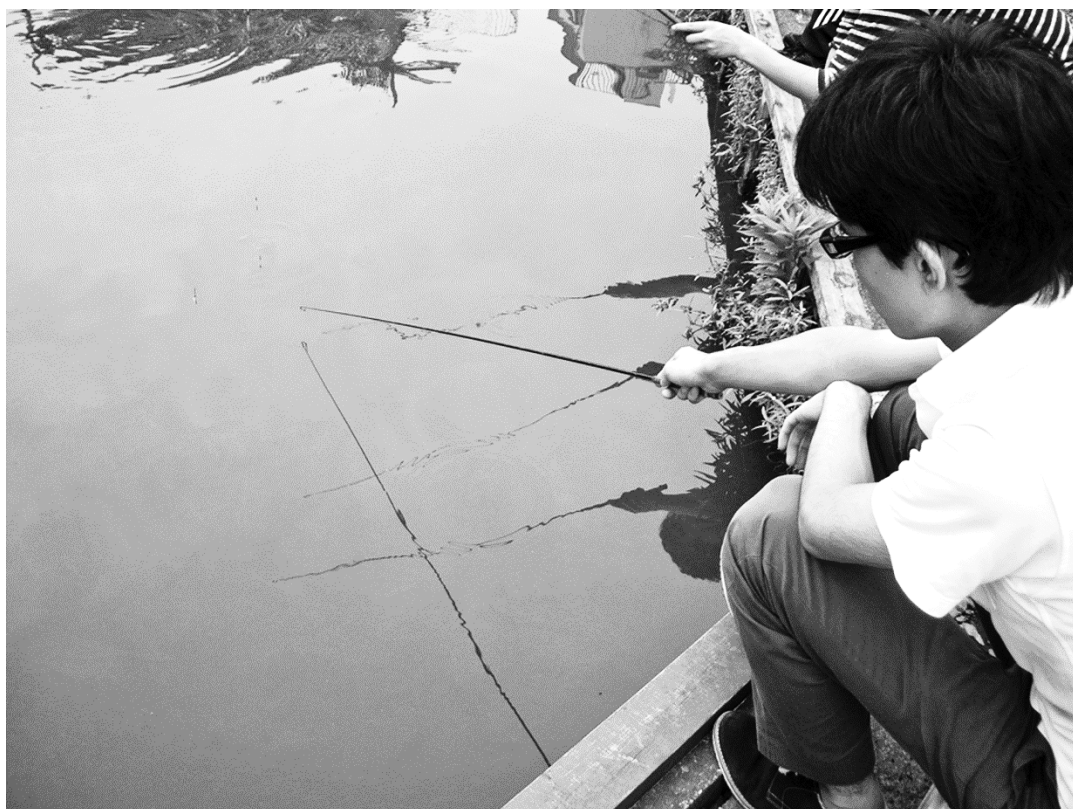
## 金魚を釣るぞ

---

寿々木園さんは、周りをビルに囲まれた、趣のある釣り堀である。市ヶ谷の、電車から見える釣り堀とはまた違った良さを感じる。釣り池は3つあり、入り口側の1つが金魚の、奥2つが鯉の釣り堀である。今回私達は金魚に挑戦することにした。貸竿、エサ付きで最初の1時間550円で釣りが楽しめる。とてもリーズナブルだ。

竿はいわゆるウキ釣り用の1mくらいの竿で、棒ウキがついている。店先に出ている釣り竿の数が、明らかに参加人数と比べて少なかったので一瞬焦ったが、奥からいっぱい出して頂いたので、全員一緒に釣りをすることが出来た。エサは一般的な練り餌だ。缶に入れた状態でもらえるのが嬉しい。片手で練り餌を持ち続けて臭くなるのを防ぐことが出来るからだ。

お金を払って、竿を借りてエサを貰い、空いている好きな場所に行って糸を垂らす。さあ、釣りの始まりだ。



**エサをつけて池に投げたら、アタリが来るまでジッと待つ**

果たして、どれだけ釣れるのだろうか。期待をともに、みな眼前のウキに集中した。

## 手段は選ばない

---

ウキが沈んだら、合わせるだけ。そうすれば、金魚が釣れる。単純明快なルールのはずなのだが、何故か誰も金魚を釣れなかった。どうやら、まだ体の黒い小さな金魚が群がって突くため、すぐにエサが取られてしまうことが原因のようだった。

そこで、筆者を含めた何人かは、何としてでも金魚を釣るべく、違う釣り方を始めた。それは、最初はやらないようにと、心のうちに決めていたのだが、なりふり構ってはいられなかった。サイトフィッシングともいう、「卑怯釣り」を始めた……。



よく分かる卑怯釣りの図

冬とは違い、水温が温かいので、水面付近に目視出来る金魚がいた。そこで、その金魚の目の前に釣り針を落とし、食べたのを確認したら引き上げる。これぞ卑怯釣り。実際にこういう釣り方があるので卑怯でも何でもないが、負けた感じが拭えない。それでも、この釣り方のおかげで、全員ボウズという悲しい結末を回避出来た。

## 努力はやがて報われる

---

筆者を筆頭に、周りは次々と卑怯釣りで金魚を釣り上げていくなか、己の信念を貫き正攻法を続ける侍が1人いた。誇り高き竜の名にふさわしい、飛竜氏である。目先の金魚にとらわれた筆者とは対照的に、ただただ、自らのウキが動くのを待っていた。真剣勝負にふさわしい、大物がかかるのを信じて。

その時は突然訪れた。男と男（推定）の意地のぶつかり合いだ。勝負は一瞬だった。勝ったのは、飛竜氏だった。



**勝負には負けたが、全力を尽くした戦いに満足した顔をしている**

これは、今回の釣りで最も大きな金魚であった。

## 祭りは終わる

---

それぞれの釣り方で金魚を釣り、それぞれ楽しんだ時間も終わりを迎えた。太陽も沈んでしまいそうな時刻だった。当初 1 時間の予定であったが、結局、30 分延長した。

今回、大体の参加者が釣果を上げることが出来た。筆者は 3 匹釣ることが出来たが、最も多くの釣果を上げたのは魯鈍ジョンさんだった。その数なんと 7 匹。彼以外の平均が 3、4 匹の中、ぶっちぎりの結果だった。

短い時間ではあったが、釣りの楽しさを感じる事が出来た。きっと、他の人も同じだろう。楽しんでくれたのであれば、企画者として、これ以上に嬉しいことはない。



今回の釣果 (一部)

## 謝辞

---

この企画に参加してくれた友人達、素晴らしい体験をさせてくださった寿々木園さんに、深く感謝致します。また、この記事を最後まで読んでくださった読者の皆様にも感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 参加者

---

いーはちえる えむひよ 臙豆腐 きよーか 凝塊 K f 高橋りなつ 飛竜  
魯鈍ジョン (敬称略)